

光が丘地区  
公共施設再編に向けた  
市民検討会



## 公共施設再編に向けた 市民検討会

### 1. 背景

相模原市では、昭和40年代からの人口急増期を中心に整備してきた学校や公民館など、多くの公共施設の老朽化が進み、今後、一斉に施設の改修や建替えが必要となり、そのための費用の確保が課題となっています。公共施設は、市民生活に必要なサービスを提供する場として、重要な役割を担ってきました。

一方、人口減少や少子高齢化の進行、情報・通信技術の発展やニーズの多様化が進む中で、将来にわたり、持続可能な公共サービスを提供していくためには、今ある公共施設のあり方を、今一度見直さなければならない時期が来ています。

#### 【光が丘地区の公共施設再編に向けた取り組み】

\* 小・中学校の児童生徒数の減少に伴う学習環境のあり方の検討を行い、市教育委員会において、令和7年4月を目途に、青葉小学校を閉校し、光が丘小学校、陽光台小学校、並木小学校に再編するという対応方針が定められました。

\* 療育センター陽光園、陽光台保育園など子どもに関する公共施設の多くが築40年以上を経過しており、建て替えなどを検討する時期を迎えています。

### 2. 目的

#### 「青葉小学校を今後どのように活用していきたいか」

令和3年度に、市民対話ワークショップを行い、今後の青葉小学校の利活用の構想につなかる、再編コンセプト、具体的な活用方策、アイデアなどを検討していただきました。

今年度は、青葉小学校の学校跡施設における「避難所としても使える、子どもや地域の活動の場」を基本とした利活用を検討することを目的に、昨年度の市民対話ワークショップを踏まえて、全4回の市民検討会と子どもワークショップを行いました。

### 3. 参加者と運営体制

有識者、地域団体推薦者、公募市民等て構成する市民検討会を設置し、様々な方の意見を伺いながら検討しました。

様々なアイテアや意見を出していたため、主に『ワークショップ形式』で行いました。ファシリテーターは、市民検討会の構成委員でもある東京都立大学の讃岐助教が行い、東京都立大学の学生スタッフや市職員が運営をサポートしながら進めました。

参加者の構成 (21)	有識者(1) 兼ファシリテーター
光が丘地区まちづくり会議委員 (4)	光が丘公民館運営協議会 (2)
小学校PTA (4)	光が丘児童館運営委員会 (1)
青葉小学校避難所運営協議会 (1)	青葉児童館 (1)
学習環境のあり方検討協議会 (2)	陽光台保育園 (2)
医療型児童発達支援センター (1)	公募市民 (2)

ファシリテーター	テーブルファシリテーター	運営事務局
東京都立大学 建築学科 助教 讃岐 亮	東京都立大学 大学院生 相模原市職員 (施設所管課)	相模原市 アセットマネジメント推進課 こども・若者政策課

- 第1回 (10/8) 目標を共有しよう
- 第2回 (11/13) テーマごとに考えよう
- こどもワークショップ (12/11) 自由にミライを考えよう!
- 第3回 (1/14) テーマごとに考えて成果をまとめよう
- 第4回 (2/19) 市民検討会の成果をまとめよう



## 第1回

## 目標を共有しよう

2022年10月8日(土) 光が丘公民館



## ワークテーマ

昨年の議論を踏まえて方向性を考える

## はじめに



昨年のワークショップの活動に関して説明を受けた後、小学校紹介動画を見て、イメージを膨らませていく

## ワーク



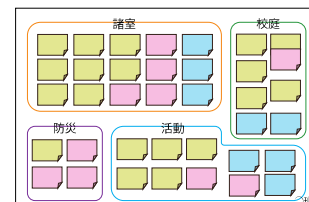
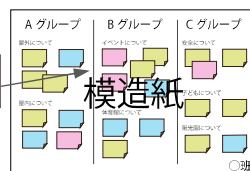
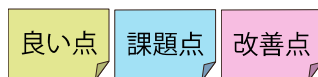
昨年の3グループの結果に対して、「良い点」「課題点」「改善点」を抽出して、付せんに書き出し、模造紙に貼る  
これをもとに各班で話し合い、何を大事にしていきたいか、今後の施設の大まかな方向性を考える

## 発表



自分のチームで議論になったことを他のチームに共有(1班・2班・3班)

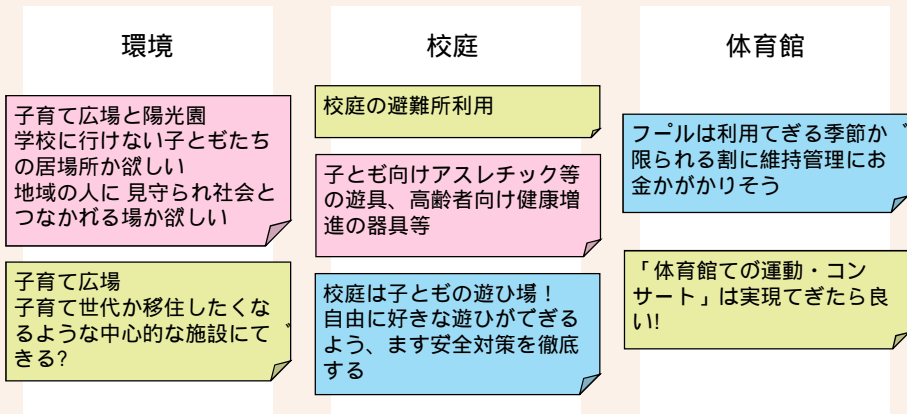
## 【ワークのイメージ】



## 1 班

## 地域の人か子どもを支える「子育て広場」をつくりたい！

良い点 課題点 改善点



「子ども」というターゲット層をさらに具体的にイメージし、そこで活動する一人一人の顔を思い浮かべて議論できている点がこの班の強みだと思います。次は、子ども達かどういう風に活動するのか、誰か運営し支えていくのかという議論に発展すると良いですね。議論を深めていけばさらに魅力的な案が生まれると感じました。



讃岐先生

## 2 班

## 地域の人か安全に活動できる場をつくりたい！

良い点 課題点 改善点

## 安全

いろいろな人が利用できるのは嬉しいか安全管理面の考えも必要

来るまでの動線の安全性  
通り抜けてぎない  
防災性

ハリアフリーで交流できる公園の計画が良い

## 校庭・体育館

校庭の活用として休日にコンサート、キッチンカーを入れた時、安全面の確認は？

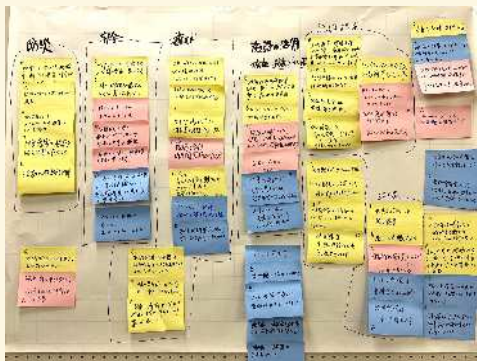
校庭の多目的利用、とても良いと思います  
夢が広がる

地域住民のみの運営は難しい  
企業の参加が必要

## 防災

防災について、地域で利用しやすいように考えられている

防災公園としてかまとベンチの設置は良い



まず、「地域住民や施設利用者の安全」という重要なキーワードがありました。ともすると「安全」は、「地域への開放」に相対するキーワードだと思われがちですが、安全面を確保しながら地域に開いていく可能性について議論を深めていたたぎたいです。また、「道路」も重要なキーワードであると感じました。施設単体の安全面たげではなく、地域としての安全面を考えないといけないという意見は、非常に重要な意見であると思います。



讃岐先生

### 3班

## 子どもから大人までが自由に遊んで学べる施設にしたい！

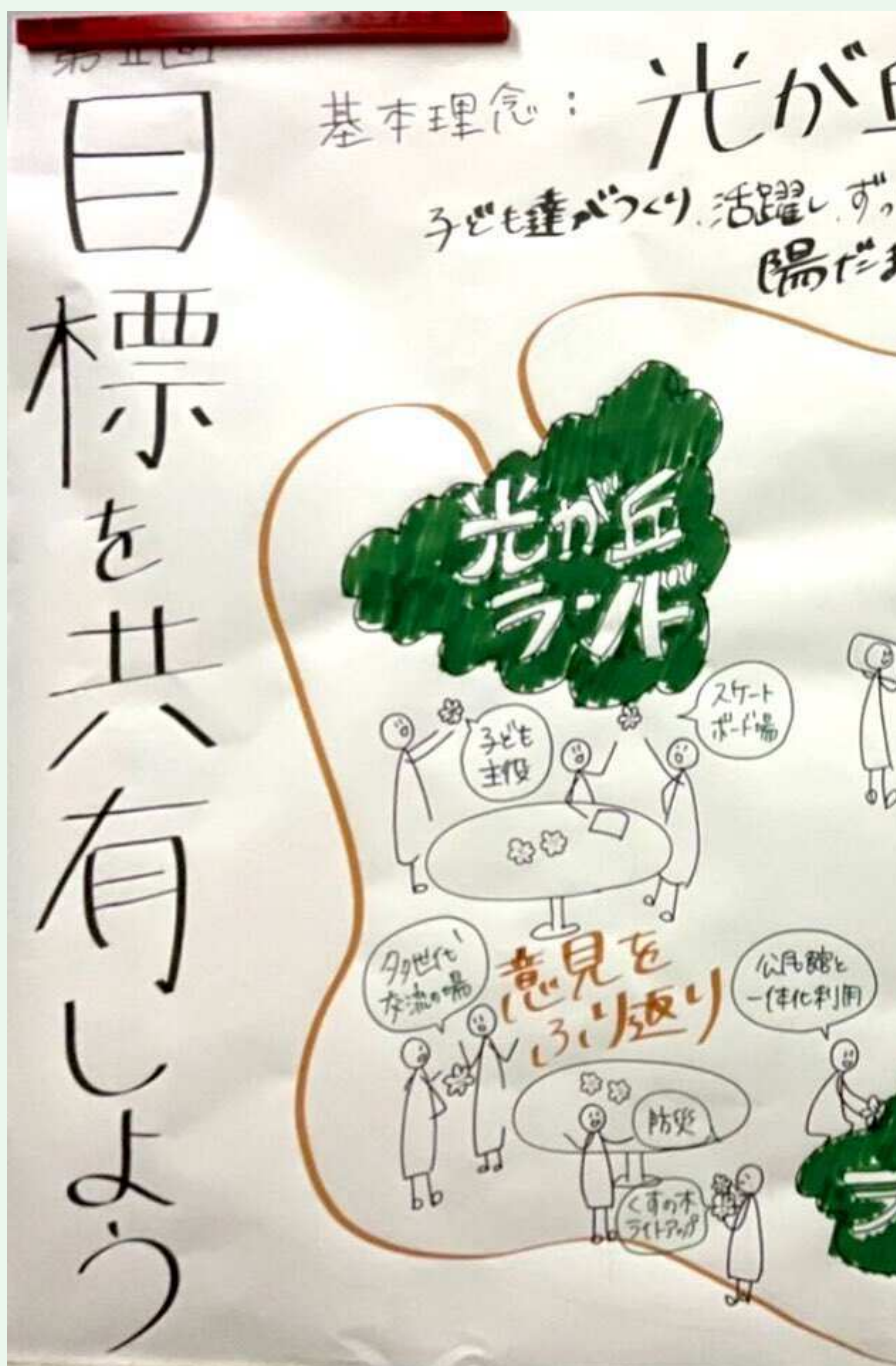
良い点 課題点 改善点

校庭・中庭	諸室	その他
子どもが自由に遊べる機能を強く打ち出しているのは良い	学校内に子ども食堂などの機能や、給食室の地域利用	学習支援への大学生の参加（リモート可）
避難場所(校庭)がある時は遊びに、ある時は避難に使いたい	子ども食堂などお金の問題は...	体育館を冷暖房化する（太陽光発電で使えるようにする）
キッチンカーもいいかイベントに終わりそうとどう日常化するか！	特徴をもった諸室(防音室・無料の学習・料理室等)を有効活用している点が良い	公民館との一体化のために、同時にリニューアルすると良い



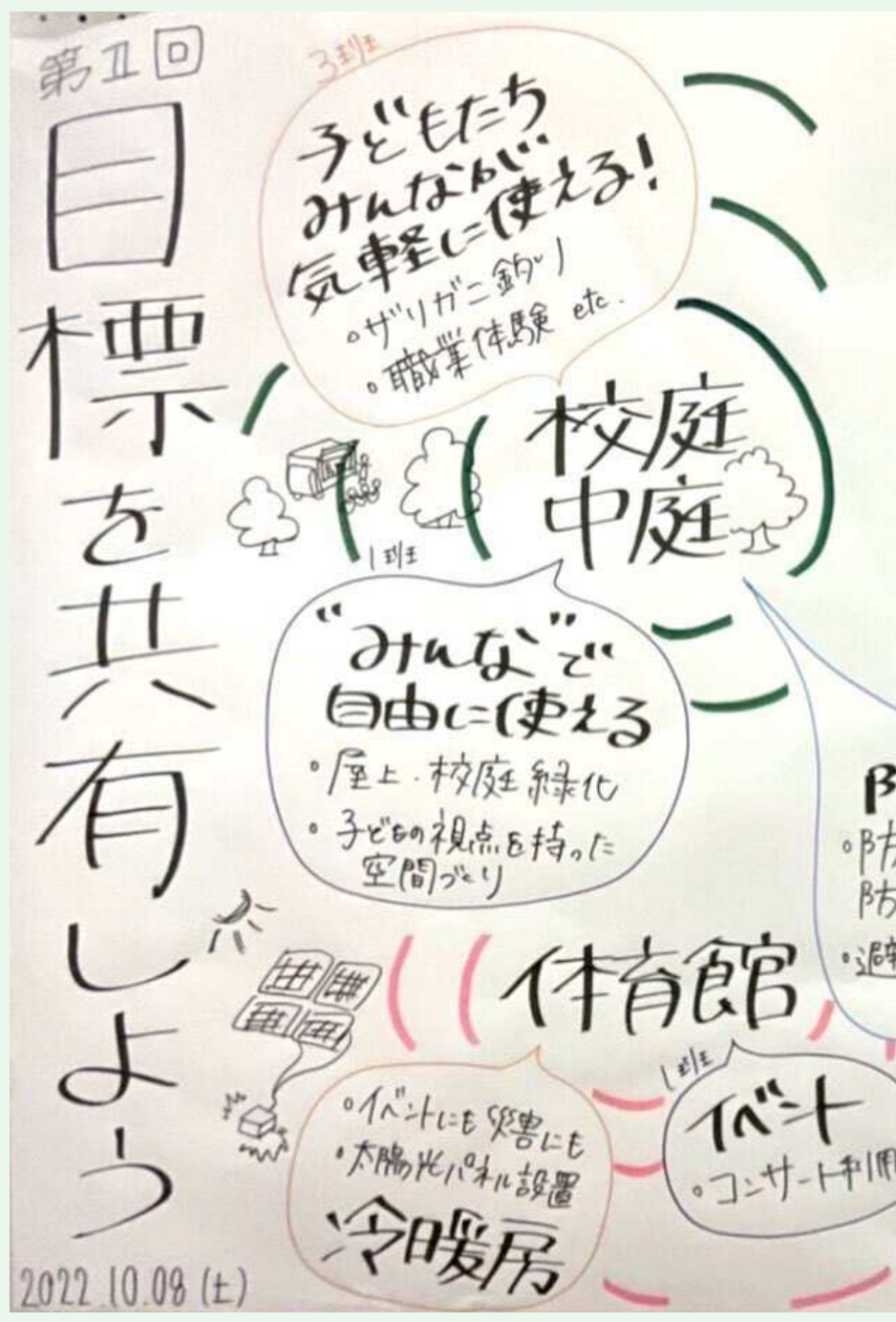
最後の言葉（「大人も子どもも、みんなが自由に楽しく遊んで、学べる施設にしたい」）が重要であると考えています。昨年度の議論では、子ども視点だけでなく大人視点でのアイデアもあったという振り返りが出来たのかまず1つ目の成果であると感じました。そして「自由」というキーワードの発見も要注目です。自由には常に責任が伴います。子ども達が気軽に訪れ活動するために、子ども達自身かどう責任をもって施設を使うか、それを地域かどう支えるか、という点について次回に議論が展開されることを期待しています。

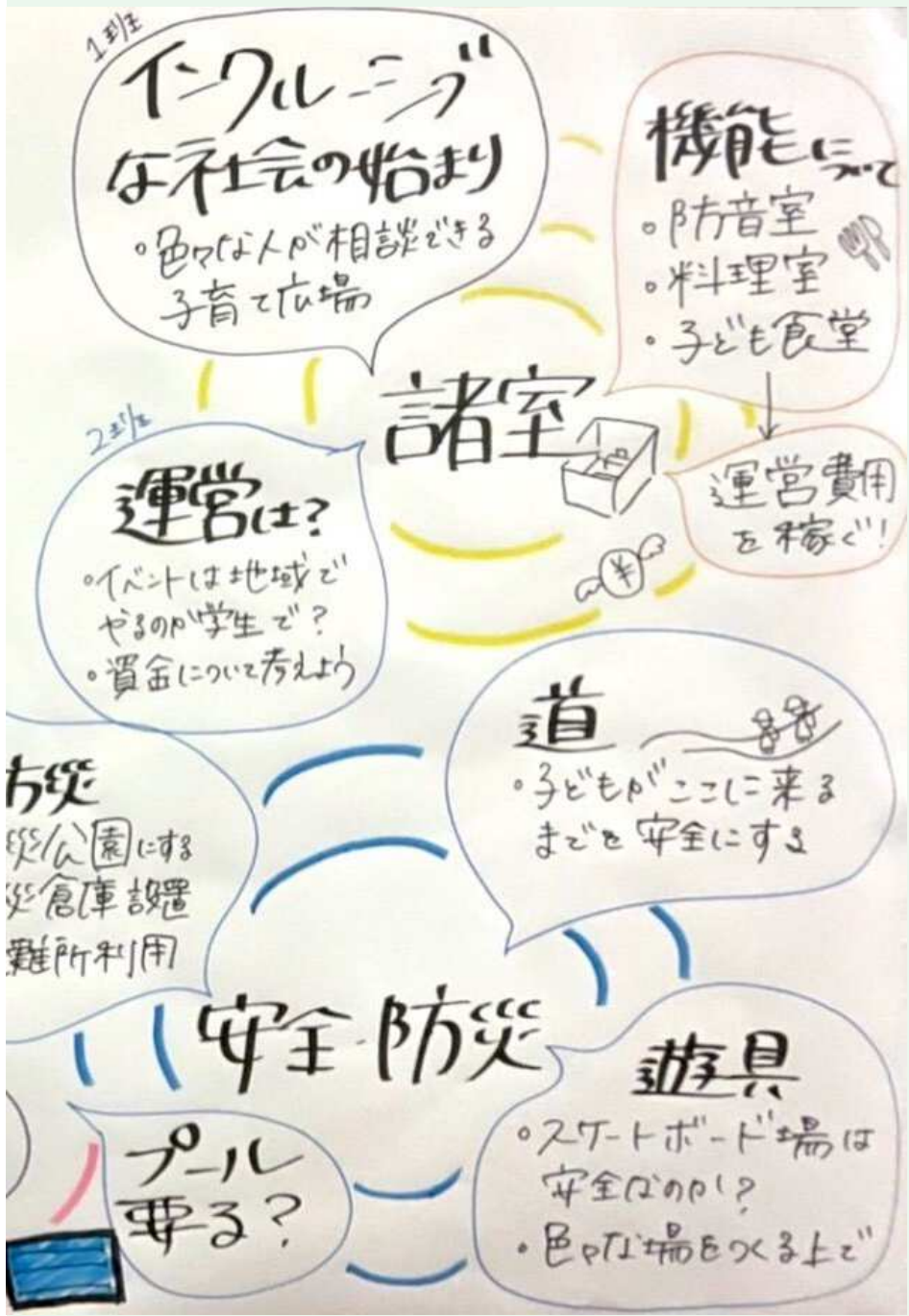














## 第2回

## テーマごとに考えよう

2022年11月13日(日) 青葉小学校 体育館



### ワークテーマ

テーマを絞って、市民活動機能などを考える

はじめに	ワーク	発表
 <p>保育園と陽光園の機能と規模の検討状況と、配置パターンについて説明を受ける</p>	 <p>前回の検討会での意見を参考にしながら、担当するテーマについて、利活用基本構想にある5つの方針の視点(キーワード)ごとに必要な機能を考える</p>	 <p>自分のチームで議論になったことを他のチームに共有(校庭・体育館・諸室)</p>

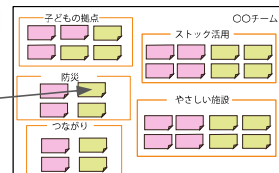
#### 利活用基本構想にある5つの方針

1. 地域とともに子どもを育む拠点として活用します。
2. 災害時の拠点として活用します。
3. 地域の魅力やゆるやかなつながりを大切にします。
4. 青葉小学校のストックを大切にします。
5. 時代に即したやさしい施設にリニューアルします。

#### 【ワークのイメージ】

第1回の検討会の意見からピックアップ

新しいアイデア



# 校庭チーム 校庭・くすの木周辺・ピオトープ担当

## 校庭で子どもが自由に遊べるようにしたい!

1回目のアイデア      新しいアイデア

子ども	地域の魅力・つながり	住民への配慮
ホール遊び(野球、サッカー等)かできるスペースを確保したい!	くすの木を中心にイベントかじたい!	桜の木を残したい! けど、難しい...?
保育園の園児の遊ぶスペースと小学生以上が遊ぶスペースを区別したほうが良い	屋上に行ける階段を作って、屋上を地域の人と子どもが野菜づくりかできる場所に	駐車場スペースもあると良い
ピオトープを整備して子どもたちが虫を探せる場所として残したい	なかよし広場と小学校側とのつなかけ、門や道路の整備	防音対策として、クラウン周辺(民家との間)に木をたくさん植える



ことワークショップで聞いてみたいってことかたくさん思い浮かぶ議論が展開していました。例えばこの場所を使うときに、クラブ等の団体としての活動と、もっと気軽に遊びの延長で日頃から使える状況を考えて、それぞれの活動の時間をきちんと想定してあげたいというアイデアがありました。これを子どもたち目線で考えたらどうなのか、平日と休日の使い分けや、時間帯での使い分けなど、子どもたち自身かどう考えるのか、興味を持ちました。



讃岐先生

## 体育館チーム 体育館・プール・なかよし広場担当

### 体育館を地域のために最大限に活かしたい!

1回目のアイデア

新しいアイデア

#### 子ども

雨の日の活動場所としても利用できるように

お母さんたちが子育ての悩みを共有できる場に

月に1,2回中学生が吹奏楽のコンサートをここでできると良いのでは!

#### 災害

屋上にソーラーパネルを設置したら発電機が少なくて済む?

ふれあい広場を平らにして、テントを張って避難場として活用する

#### 地域の魅力

3世代交流!ヘダंकかできたらいいな

#### やさしい

正門から安全・安心に子どもたちを送り迎えてくれるように

校庭側からのアプローチにはハリアフリー対応

#### 地域の課題

近隣住宅に対する騒音対策が必要!  
一緒に解決してお互い我慢しないようにするには?



特に体育館の使い方の実態としての多様さとか、広いからこそ使いやすい良さなどが、地域としても大切にしたい施設なんだというメッセージが伝わってきました。また、近隣住宅への音配慮の問題や、正門から遠いというアプローチの問題に対する認識を共有頂きました。今ある体育館の配置をしっかりと認識して課題解決するための糸口をきちんと整理したことが、この班の議論の成果たづたのたではないでしょう。



讃岐先生

## 諸室チーム

市民活動で使用する諸室担当

いろんな場面で使える、居心地の良い場所にしたい!

1回目のアイデア

新しいアイデア

### 調理機能

子どもを育む場としての子ども食堂、居場所づくり

普段から炊き出し等の体験イベント! 災害に強い地域になると安心

### プログラム(交流)

子どもから大人まで共有利用できるような広い図書室があると良いな

各利用者からの情報発信を共有できる工夫を考えるともっともつつながれると思います

### 設備

空調設備は絶対必要! 災害時の非常用電源の確保は各家庭たど難しいのでここに投資してほしい

### 防音機能

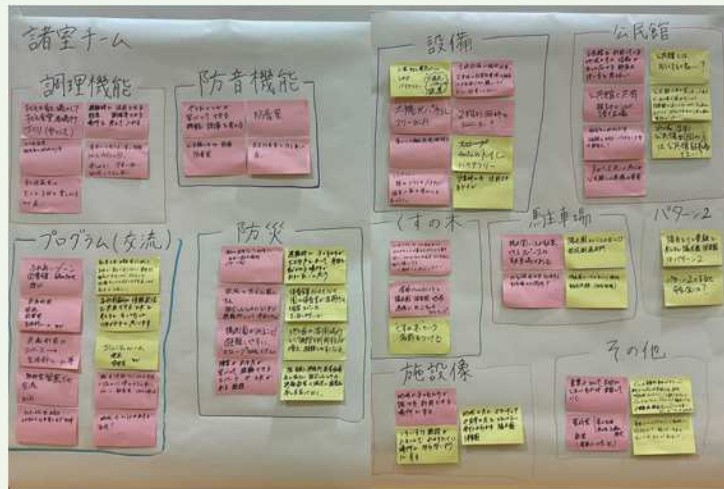
大きな声を出してもいいような環境づくり  
やりたいことが安心してできる機能、設備を考える

### 防災

障害がある方が安心して避難できるスペースや工夫がほしい

### くすの木

イベントを行い、フリーマーケットや出店などを出し収入源にする



「青葉小として大切にしたいものを共有することが大事」たという言葉こそか大事だと思います。つまり、この場所のあり方、使い方の具体的なビジョンを共有することが大事たというメッセージです。また、図書室の使い方のアイデアがありましたか、これは今回の基本プランからもう少し掘り下げて機能配置、部屋の割り振りを考えることの必要性に気付く良いきっかけになったかと思ひます。



讃岐先生

2

テーマごとに考えよう

2

テーマごとに考えよう





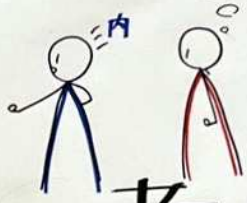
自由に活動  
できる場をつくる!!

の安全

用する上での安全

「まだ広げた安全

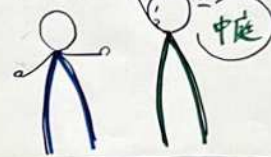
体育館



### 3.自由に遊べる 学べる施設

(=したい!)

- ・子ども視点で楽しめる場
- ・諸室の有効活用
- ・環境の整備



## 自由に考えよう

に必要な機能を考える



利活用  
基本構想

### 5つの方針

- ・地域と子どもを育む拠点として
- ・災害時の拠点として
- ・地域の魅力やゆるやかなつながり
- ・青葉小学校のストックを大切に
- ・時代に即した新しい施設  
(=リニューアブル)

# 有室



2

テーマごとに考えよう



1. 専用駐車場  
安全を守るために!

防音室 子どもが遠慮なく  
大きな声を出せるように

料理 食育

図書室 諸室

2. 障がい  
があっても、  
安心して遊べる

2. トイレ  
2. たたみ

3. 企業  
協賛金

4. シンボル  
ツリー くす  
の木

3. くすの木  
ライトアップ  
室内連携

5. 道路整備  
正門前の道路を広くしたい

1. ビオ  
トープ 自然との触れ合いの場  
→ 管理が問題

5. 男女関係は  
みんなの  
トイレ  
近隣に配慮する  
プール

パターソン

日当たり good!  
周辺施設 good!

がまど  
ビッチ  
に「まど」として

上  
延 班



こども  
ワーク  
ショップ

自由にミライを考えよう！

2022年12月11日(日) 光が丘公民館

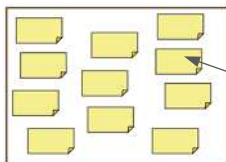


ワークテーマ

「子どもの施設」「新しい施設でこんなことがしたい」というアイデアを考える

はじめに	ワーク1	ワーク2	発表
アイスブレイクとしてカードゲームを用いてまちづくりに親しむ	放課後や休日に遊びに行くところなどを自由に話し、付せんに書いて模造紙に貼る	こういう活動がしたい、などのアイデアを書き、小学校のどこでできるか考えて地図に貼る	自分のチームで議論になったことを他のチームに共有(1班・2班)

【ワークのイメージ】



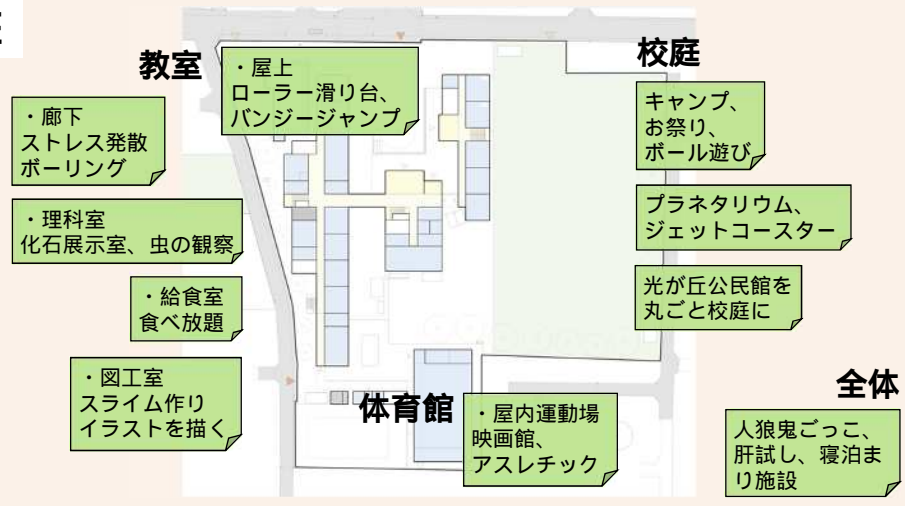
今頑張っていること  
学校以外で行くところ



こんな場所  
が欲しい  
こんな活動  
がしたい



## 1班



1班の特徴は、「場所の特性」と「活動」が結びついている点にあると思います。給食室では『食べ放題』といった具合に。イベント開催等を通して実現してあげてくださいね。  
また、光が丘公民館をまるごと校庭にもってくるというアイデアも、市民検討会での意見とも通じる貴重な意見です。

讃岐先生



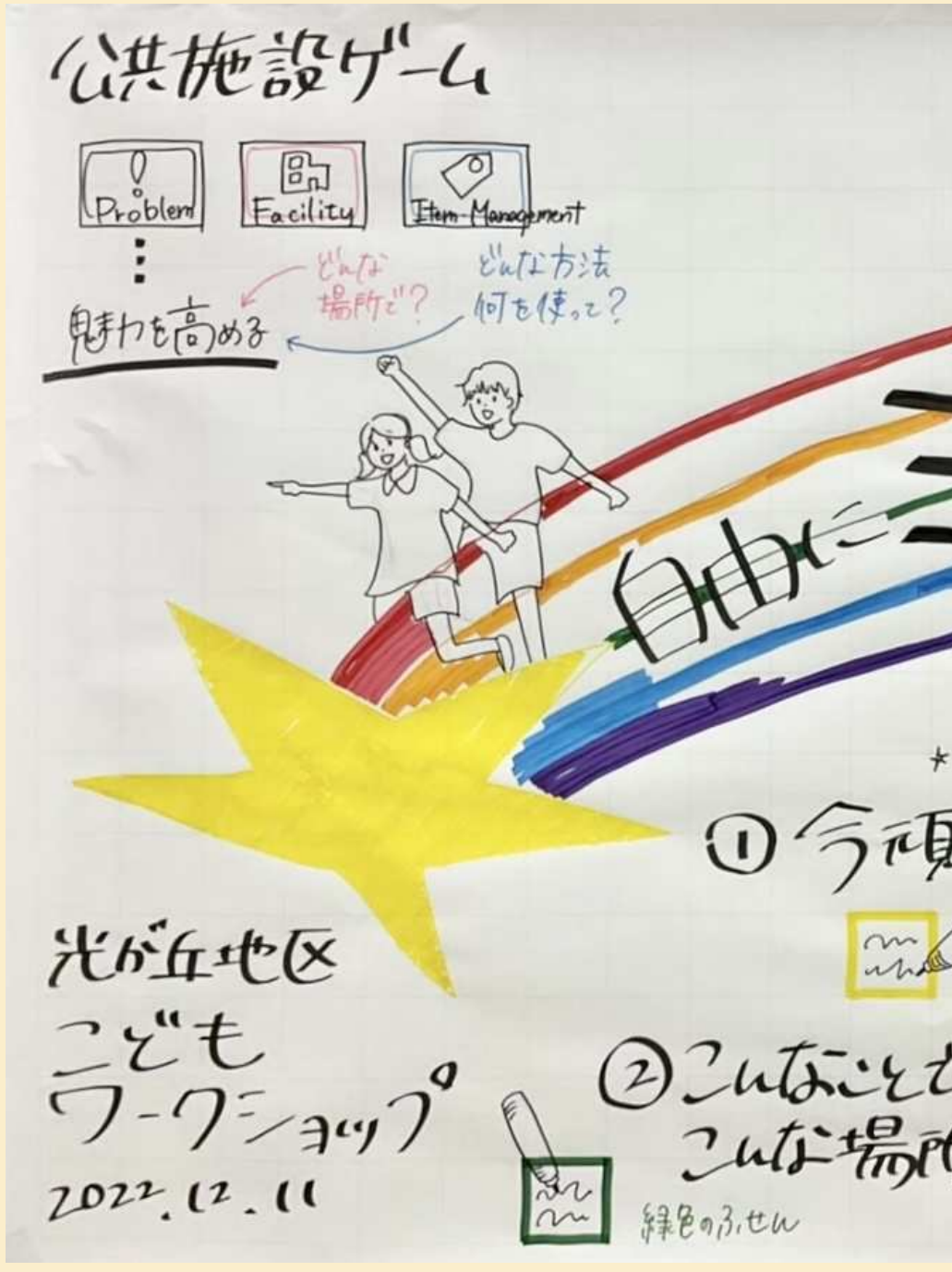
## 2班

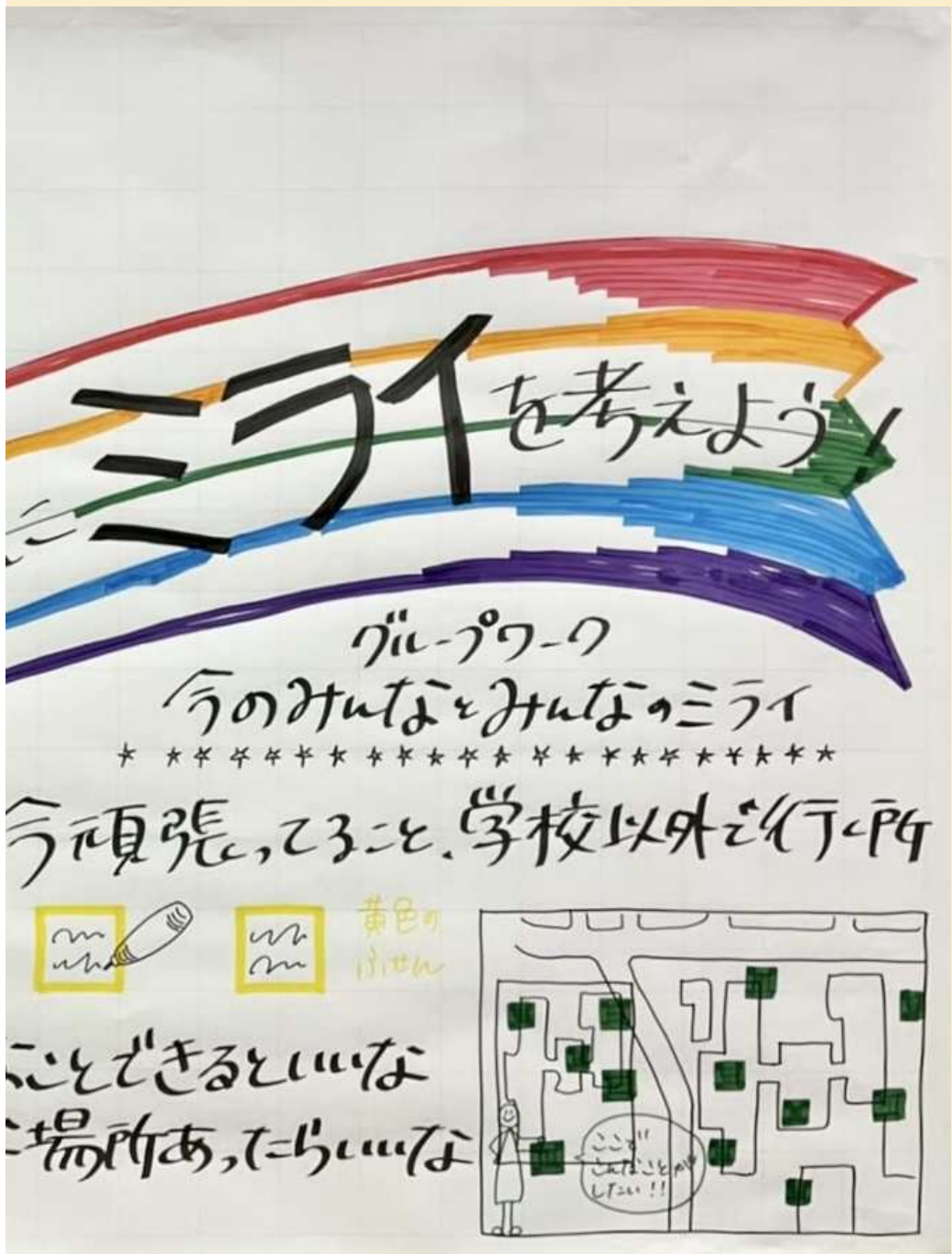


大人なかなか気付けない子どもたちのニーズが発見されたと感じました。特に「癒やされる場所」や「ゆったりできる場所」という言葉が印象に残っています。活発に遊ぶということだけでなく、静かに佇むといったシーンを想定することも、これからの施設活用を考える際に大事なポイントになりそうですね。

讃岐先生



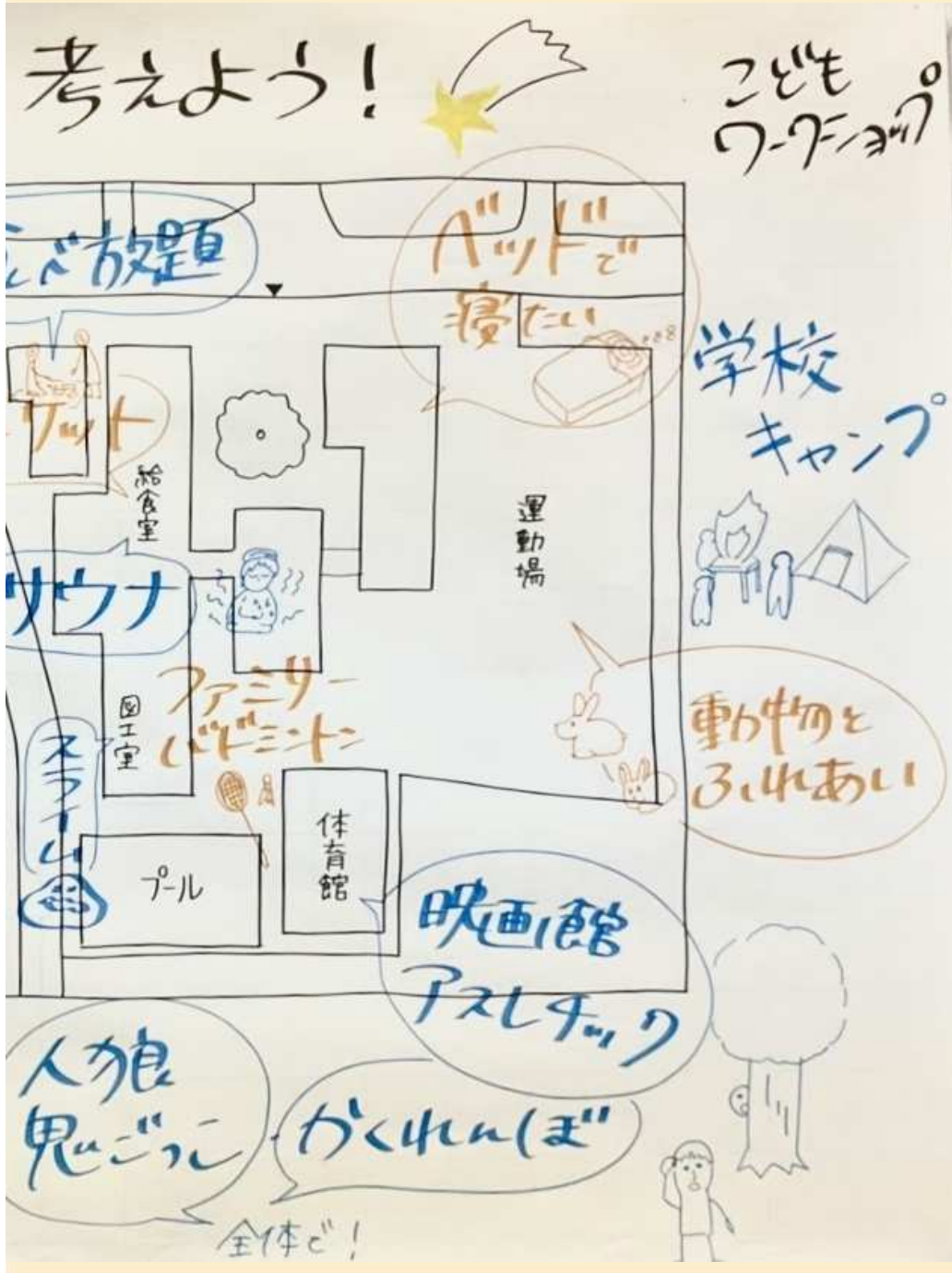




# 自由にミライを考









## 第3回

## テーマごとに考えて成果をまとめよう

2023年1月14日(土) 光が丘公民館

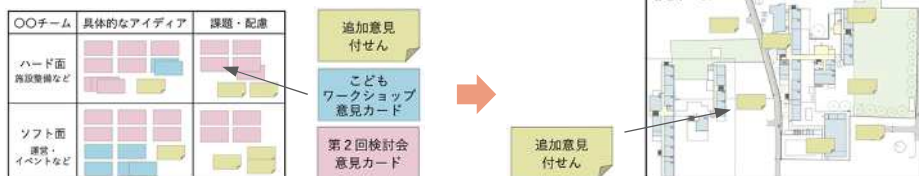


### ワークテーマ

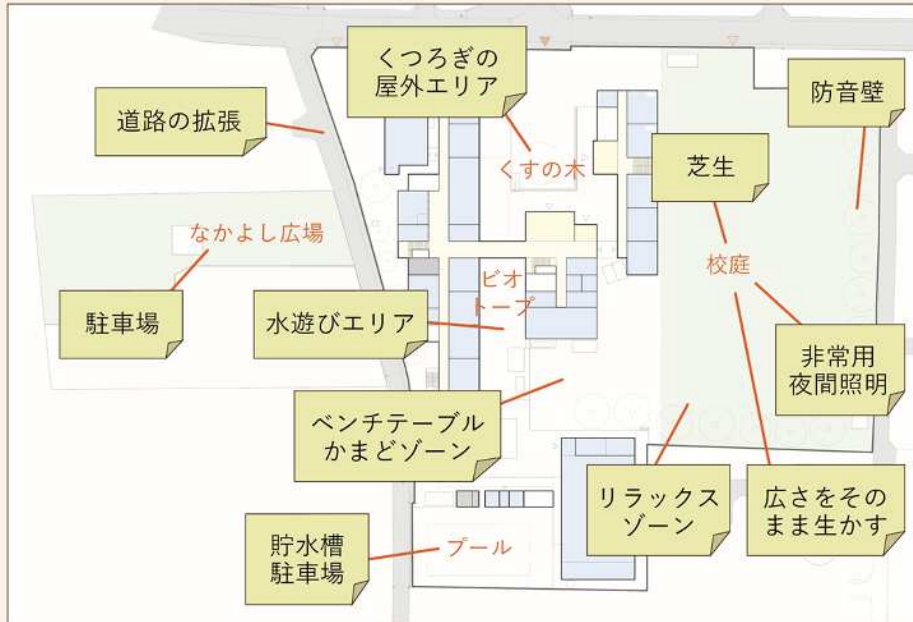
第2回までの成果などを踏まえ、  
テーマごとに考えをまとめる

はじめに	ワーク1	ワーク2	発表
市における、市民活動機能、陽光園、保育園の配置の検討状況の説明を受ける	前回までの検討会の意見カードをテーマごとに整理し、実現に向けて課題などを話し合う	担当以外のテーマに関連するアイデアや配慮を付せんに書き出し、地図に貼る	自分のチームで議論になったことを他のチームに共有(校庭・体育館・諸室)

### 【ワークのイメージ】



**校庭チーム** 校庭・くすの木周辺・ピオトープ担当



3

テーマごとに考えて成果をまとめよう

**性格の異なる屋外エリアで全員が楽しめるようにする!**

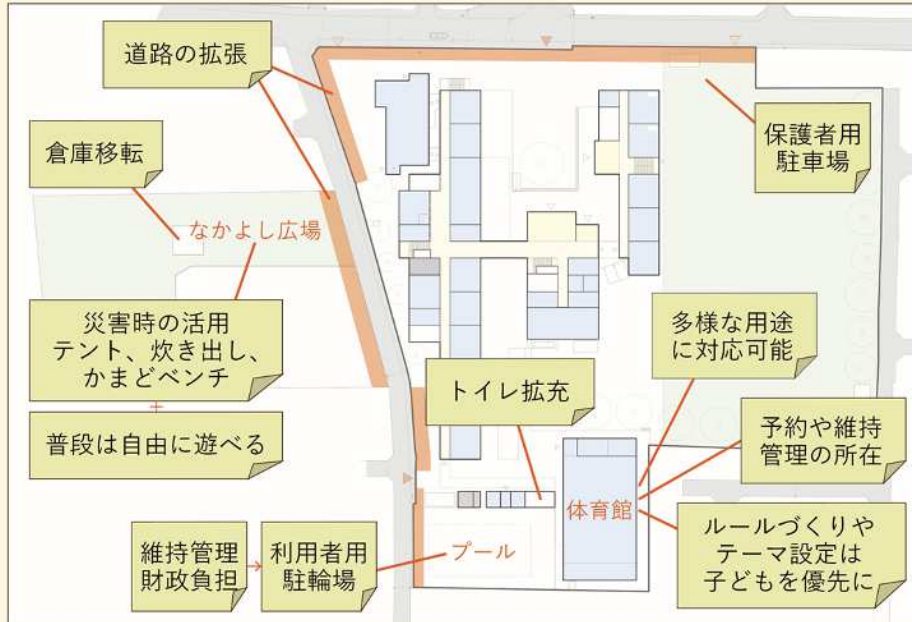


かまどベンチ、というキーワードについては、昨年度の議論にあった「防災」というテーマを受け継ぎつつ、こどもワークショップで出た意見をも拾って上手に生かして下さったと思います。また、他のチームでも議論があった校庭の芝生化というアイデアから、単なる既存施設の活用を超えた、新たな風景づくりにしたいという皆さんの共通の想いが想像できました。



讃岐先生

## 体育館チーム 体育館・プール・なかよし広場担当



広く、可変性のある場で、子どもの活動を支えていく！



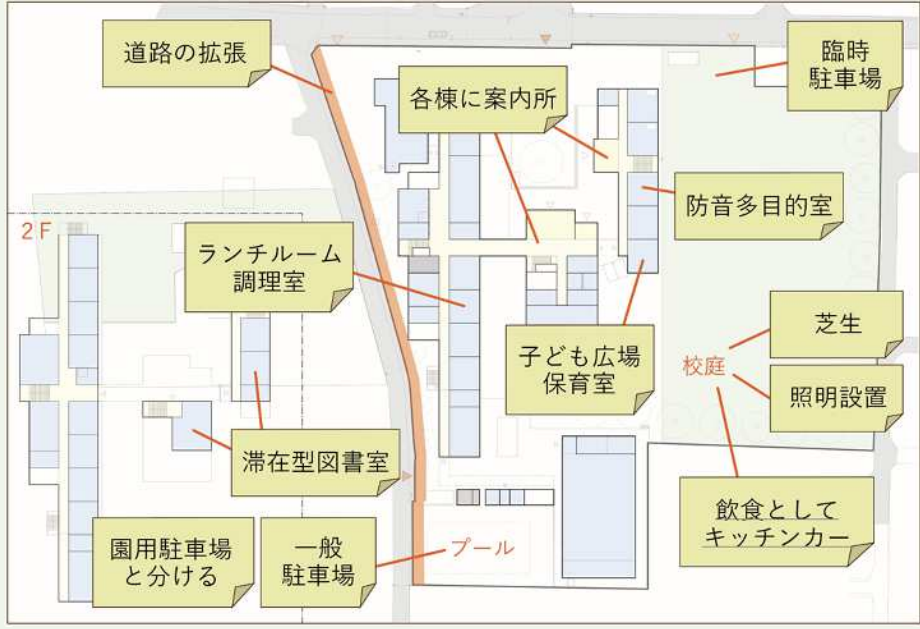
前回の検討会の議論に引き続き、体育館という空間の特性を踏まえたアイデアや工夫がたくさんありました。また、こどもワークショップの意見について、大きな空間であれば実現できそうといった前向きな意見もありました。

チーム内では運営についての議論があったのも特徴です。そして、それは必ずしも体育館の運営だけに留まらない、という議論がありました。これはまさに、今後の課題ですね。



讃岐先生

諸室チーム（くすのきチーム） 市民活動で使用する諸室担当



光が丘が選ばれるように、若い世代のニーズに応える！



一つ一つのアイデアの背景にその理由があることや、テーマを設けてチームの議論を始めたことなど、このチームの特徴が議論の形そのものに表れていました。  
 子どもたちの要望をできる限り実現するために設備を完備するという意見がありましたが、一方で足りないものがある空間でこそ、子どもたちの想像力が発揮されるという考え方もあるかもしれません。議論の深掘りで更に魅力的になりそうなテーマが浮かび上がりました。



讃岐先生

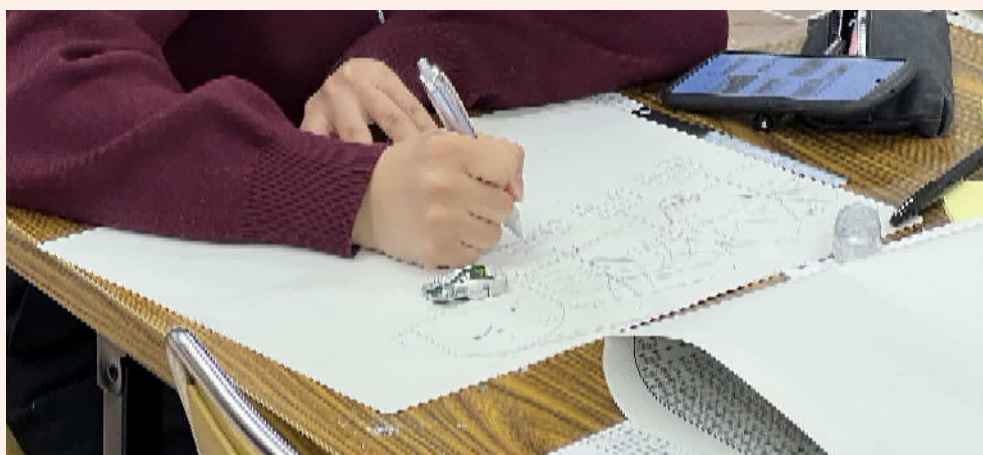
### 第3回 ラフスケッチ

製作：大学院生

ワーク1で話し合った結果をもとに、実現したい空間のイメージのスケッチを描いていきました。ワークの最後にはこのラフスケッチを見ながら、さらに実現したいことなどの要望を学生に伝えました。

3

テーマごとに考えて成果をまとめよう





3 テーマごとに考えて成果をまとめよう



## 第4回

## 市民検討会の成果をまとめよう

2023年2月19日(日) 光が丘公民館

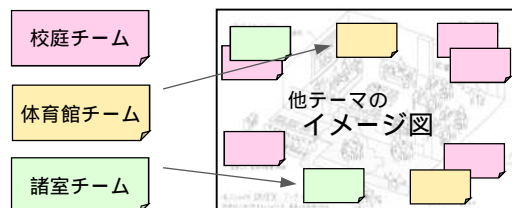
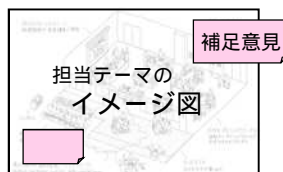


## ワークテーマ

テーマごとの成果を共有して  
磨きをかける

ワーク1	ワーク2	発表	総評
学生が描いたイメージ図に、補足意見や管理運営のアイデアを付せんに書いて貼る	他チームのイメージ図を見て周り、意見や改善点を付せんに書いて貼る	自分のチームで議論になったことを他のチームに共有する(校庭・体育館・諸室)	讃岐先生から、地域へ向けたメッセージ「光が丘地区の新たな場づくりへの期待と展望」

## 【ワークのイメージ】





## 校庭チーム 校庭・くすの木周辺・ピオトープ担当

- 校庭全体
- 備品を置く場所
- 駐車場は芝生広場と共有
- 全体利用と部分利用を自由に変更
- 芝生は部分的に
- 普段は子どもの遊び場として
- コンクリートではなくゴムのような材質に



- くすの木周辺
- くすのき等にイルミネーションを
- 少しミーティングするのに良い
- ウッドデッキが良い!
- 小学校の面影が無いほど非日常を感じる
- 青空テラスはみんなの憩いの場に
- 普通のコーヒー、美味しいコーヒーの2種類あると良い



### イベント

屋外のトイレ

水場の設置

キャンプイベントの利用時間？夜間は近隣に配慮

BBQができることを売りにする

普段から火を使うことに慣れるイベントを

火を使うスペースを設ける



キャンプなどのイベントで利用される

災害時に限らず、日常的に開催するイベントなどでも活用する

体育館脇のプールを駐車場にする場合には、陽光園・保育園の利用者が送迎に困らないような配慮が必要という、運営を考える上での大事な発言がありました。また、1つのイメージ図の中で、「いくつかの時間帯や時期があることに気付き、それに応じた議論の整理をされていました。同じ場所を示しながら、絵の追加のアイデア、補足文章やキーワードとして残すべき大事なアイデアが描出てきたと思います。



讃岐先生

### 体育館チーム

体育館・プール・なかよし広場担当

体育館-全体

他の駐車場との利用分担

夕方は保護者の利用優先

車幅の拡幅も併せて整備

外側にも鏡

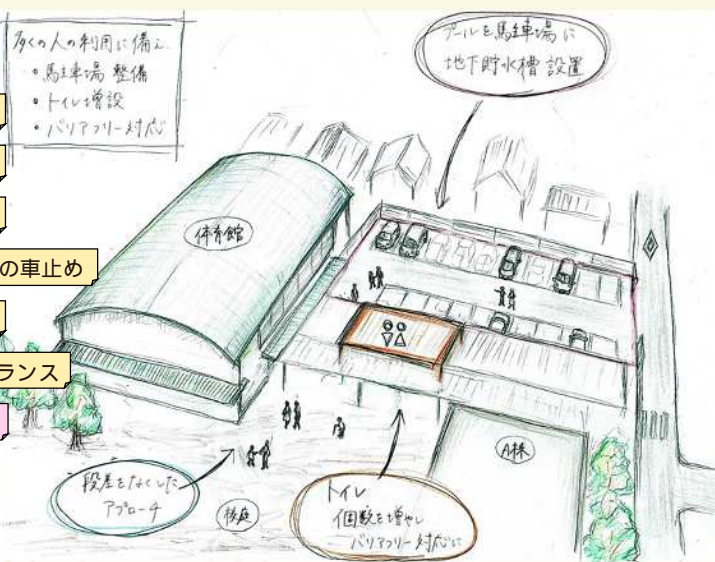
屋根付きの車止め

色分けで道案内のサイン

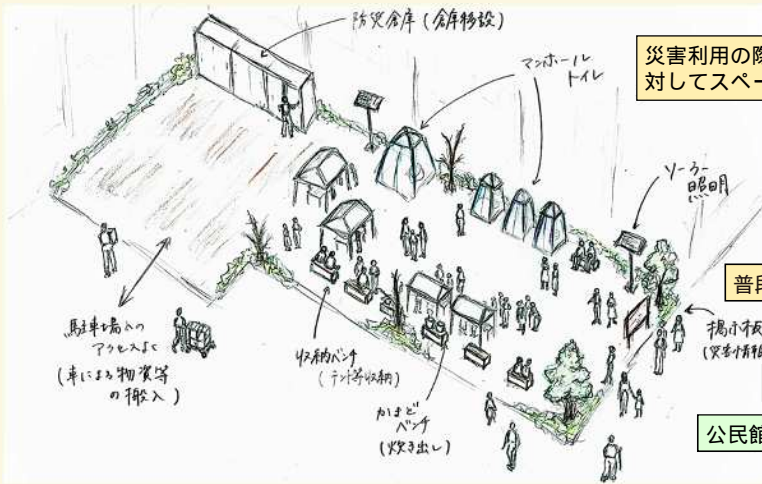
セキュリティと連携のバランス

駐車場設備は費用と相談

誰でも使いやすい綺麗なトイレ



なかよし広場



校庭・体育館との災害時の役割分担

災害利用の際、来る人の多さに  
対してスペースが不足するのでは

トイレは常設

隣地への配慮

平時は駐車場

普段は遊び場として活用

芝生だと魅力的

市民農園として利用

公民館駐車場との一体利用

体育館-活動

体育館 何らかし設計、大ホールは利用、多様な利用の対応、イベント開催や地域の団体の活動場所として使います。使用シーン：映画上映、コンサート、etc.

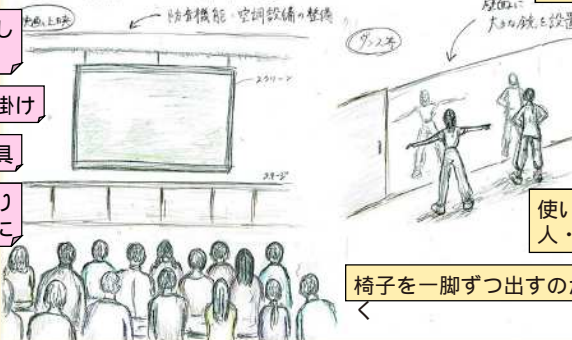
貸出の無い日も楽しく  
過ごせる仕掛け

人を定着させる仕掛け

年代に合わせた遊具

利用者が気軽に取り  
出して使えるように

企業を誘致して  
スポーツなど



青葉児童館との一体運営

使い方は自由だが  
出入りは管理

備品の管理

誰が管理する？

使い方・安全面の管理  
人・時間の管理とルール

椅子を一脚ずつ出すのが大変 設置しやす



施設の管理運営について、単に金銭上の契約関係にするだけでなく、地域としてコミュニケーションをとるという力強い言葉がありました。また、他のグループがら頂いた意見と異なる視点による意見もあったことを踏まえ、検討会では決めきれずに残った論点があること（例えば管理について指定管理者に任せるのかボランティアで関わるのか、校庭利用の区分けをとどうするかなど）を丁寧に整理して頂きました。



讃岐先生

## 諸室チーム(くすのきチーム) 市民活動で使用する諸室担当

### 調理室・ランチルーム

プロジェクター・ホワイトボード  
料理教室や食育講座に使用

食育に活用できる  
イベント・写真パネル

予約が必要なのか、いつでも使える  
部屋なのか周知する必要がある

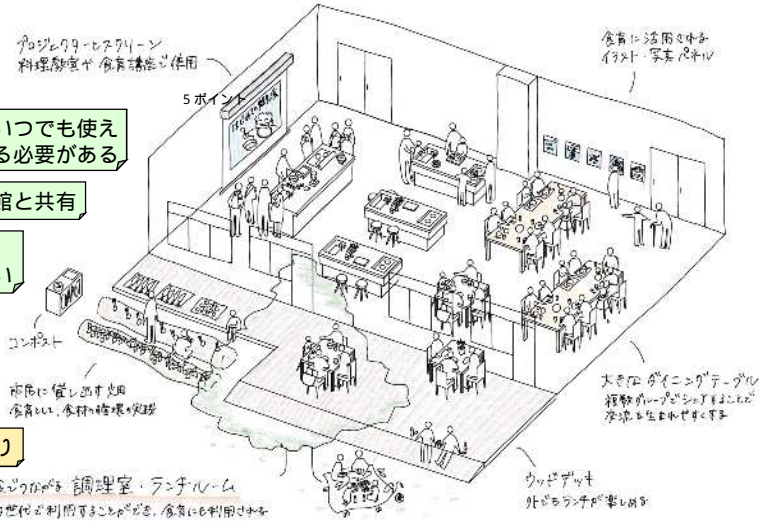
農園は保育園や公民館と共有

フリーで食事できる  
室内場所もあると良い

火の利用には管理者  
がいるのでは？

子ども食堂の機能

校庭BBQとのつながり



食育の機能 調理室・ランチルーム  
併せて利用することも可能、食育にも利用できる

### 保育室・子育て広場

プロジェクター・ホワイトボード  
親子向け講座や  
親子講座に利用

肘がらも直帰アクセスまでトイレ  
あむつ替え台

子どもセンターとして公民館  
と分けると良いのか？

利用者同士の情報コーナー

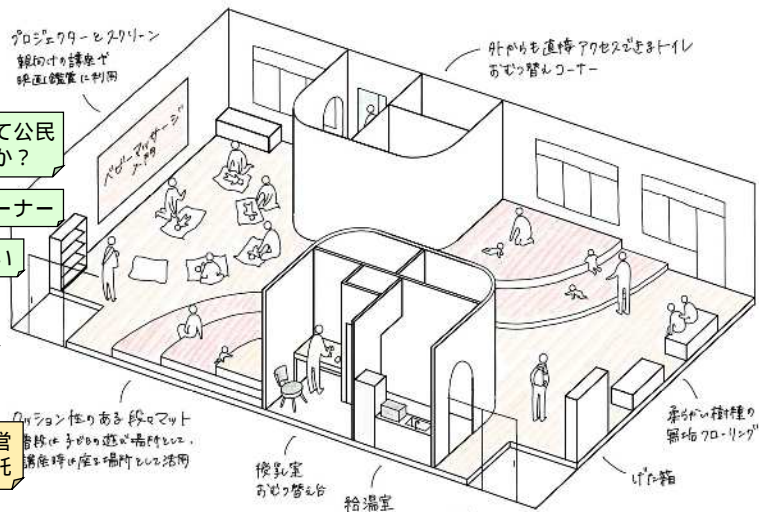
室内遊具があると良い

将来地域の施設との  
関係をどうするのか

管理は誰が？

市内の子育て広場運営  
団体に管理・運営委託

放課後教室は  
どう残すか



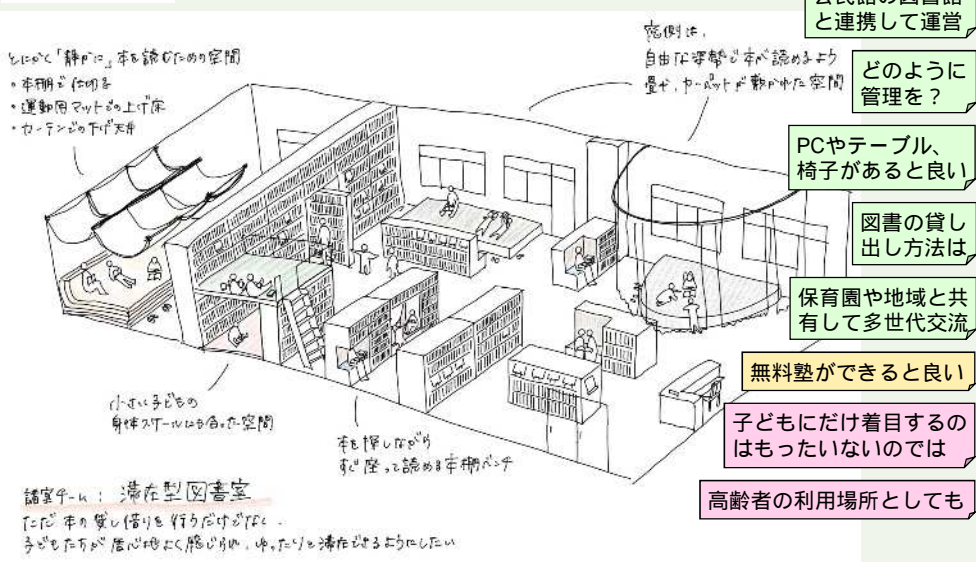
保育室・子ども広場

小さな子どもがいる家庭も、心置きなく楽しめるように

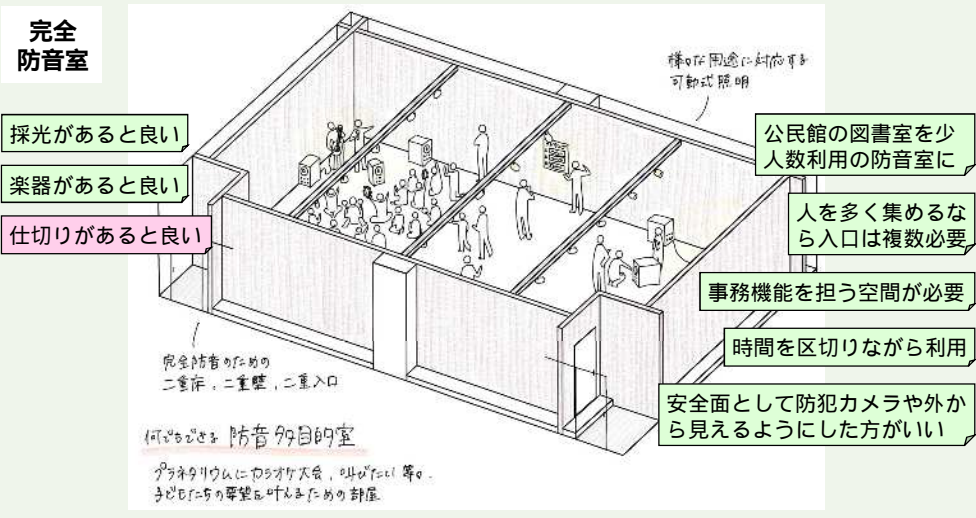
公民館とのコラボで充実を



### 滞在型図書室



### 完全防音室



最初から目的を決めず、「形を変えていく」というあり方がこの場所に求められるのではないかと、というメッセージがとても印象的でした。これは他のグループでも議論の中で出てきた意見だと思いますし、全体で共通する想いではないでしょうか。  
 また、公民館も同時に変わっていきたい！という未来志向の素敵な言葉を頂きました。これは、青葉小学校単独でばない地域ぐるみの拠点形成にしていきたいという、光が丘地区らしい発想の表れたと思いました。



讃岐先生

『最初から完成を目指さない、一つ一つのアイデアを実現しながら、光が丘地区らしい場をつくっていく』。このテーマは、昨年度のワークショップの最終回でみなさんと共有したものでした。こういった発想が今年度の市民検討会でも生かされたと考えています。そして、この発想は、2カ年を通じて得た一つの成果だと思えます。

やってみる、試してみるというのはとても大事なことです。光が丘地区には、イオンの移動販売を地域に来てもらうよう働きかけ、それを実現させた実績もあります。地域課題を自分たちで解決しようとする発想は、まさに「じぶんごと」にしようとする皆さんの姿勢の表れです。その延長で、この青葉小学校の将来の利活用をより生きたものとするために大切になるものが、皆さん一人一人の「関わり」です。これは、市民検討会への参画もそうですし、施設再整備の段階で想定されるまた別の情報共有の場、あるいは整備後の運営やイベント参画等、あらゆる場が想像できます。再編された未来のまち、再編後の公共施設を真に「市民のもの」とするためには、より一層の積極的な関わりが何より重要になっていきます。

昨年6月の相模原市の広報には、まちの中で公共施設がどう存在しているのか、どんな人と公共サービスを通じてつながっているのか、どんなあり方が望ましいのか、ということの説明するイメージ図が掲載されていました。単に、施設名や与えられた機能が表すとおりサービス提供するだけでなく、まちの中でどうあったら良いかを示すビジョンが描かれていたのです。このプロジェクトがこうしたビジョンを具体的に表す良い事例になるよう、ますます議論を深めてもらいたいと思います。

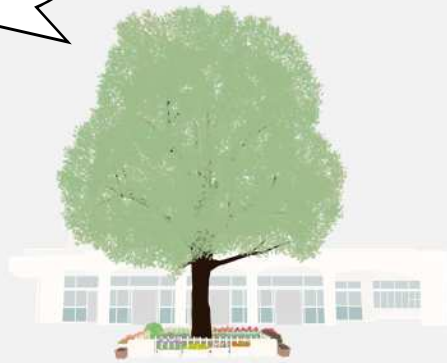


讃岐先生から、最終回の地域へ向けたメッセージ



4  
市民検討会の成果をまとめよう

みなさん  
お疲れ様でした！



## 完成イメージ図 - 校庭

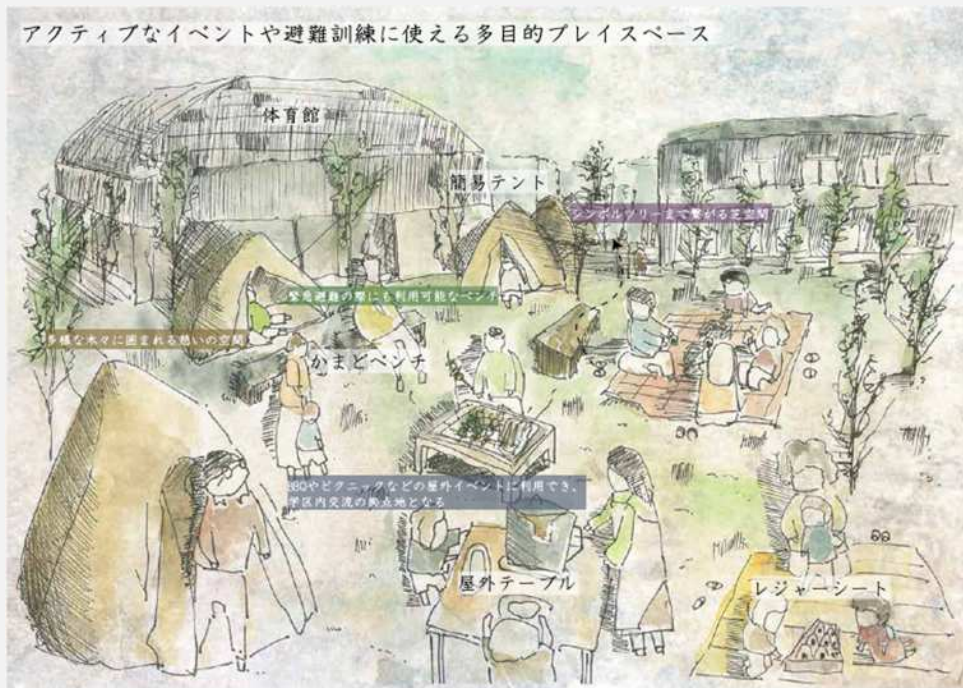
製作：大学院生 高橋さん

第4回で話し合った結果をもとに、学生スタッフにより、実現したい空間のイメージ図を描きました。

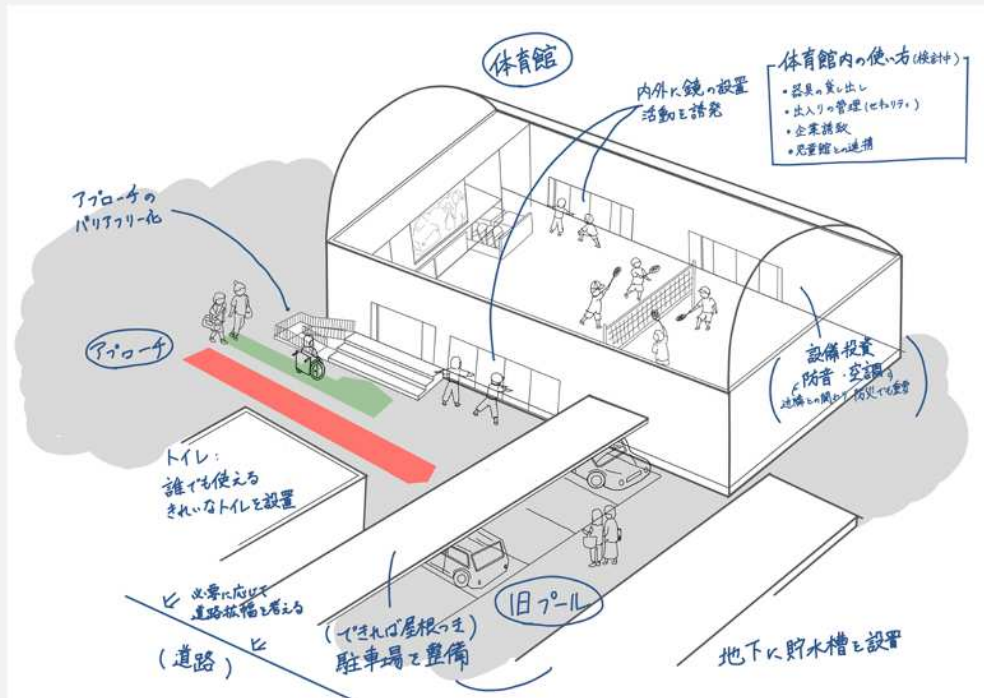
### 校庭チーム

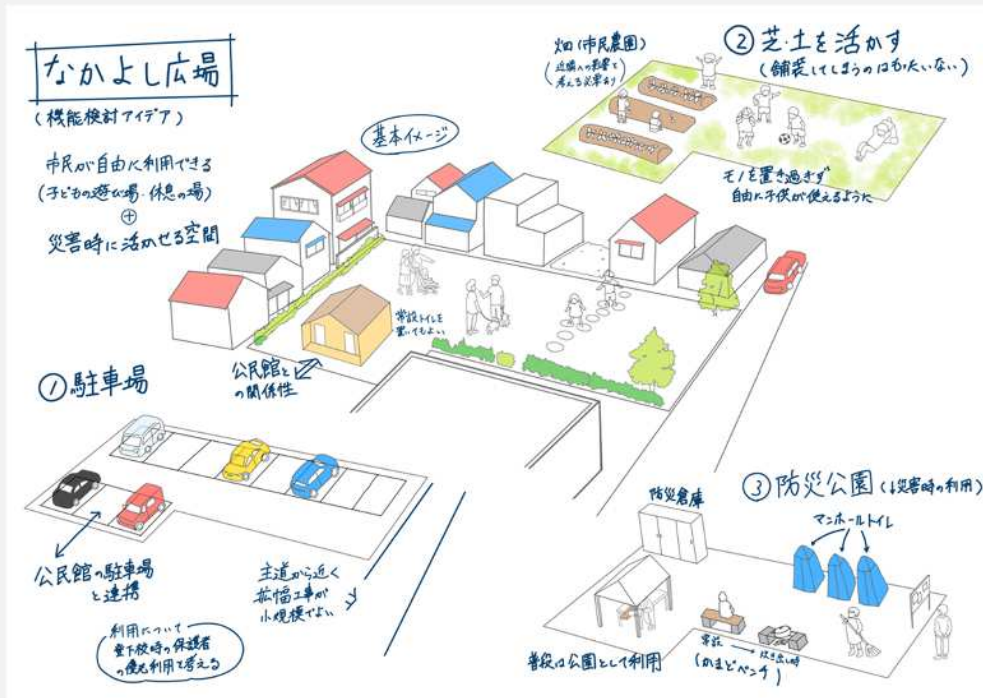






### 体育館チーム

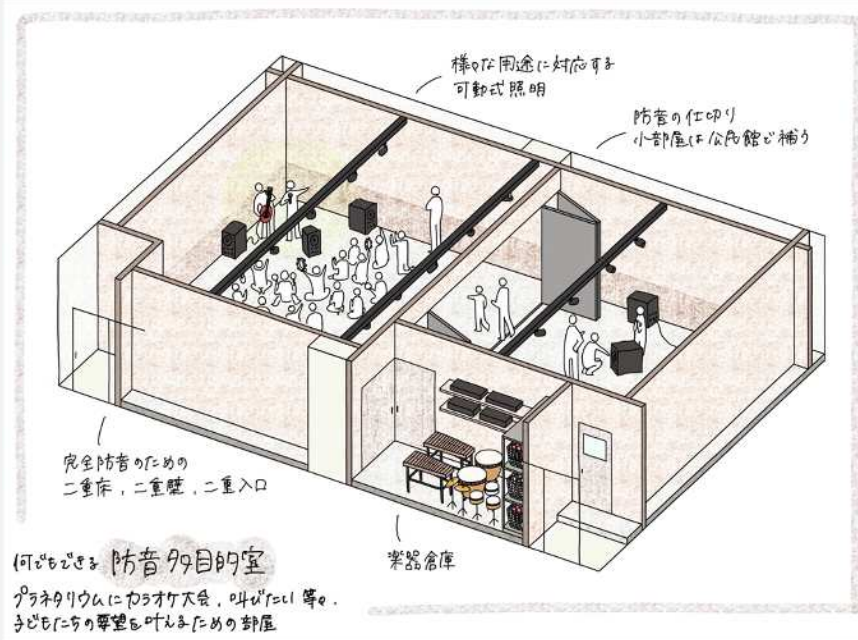
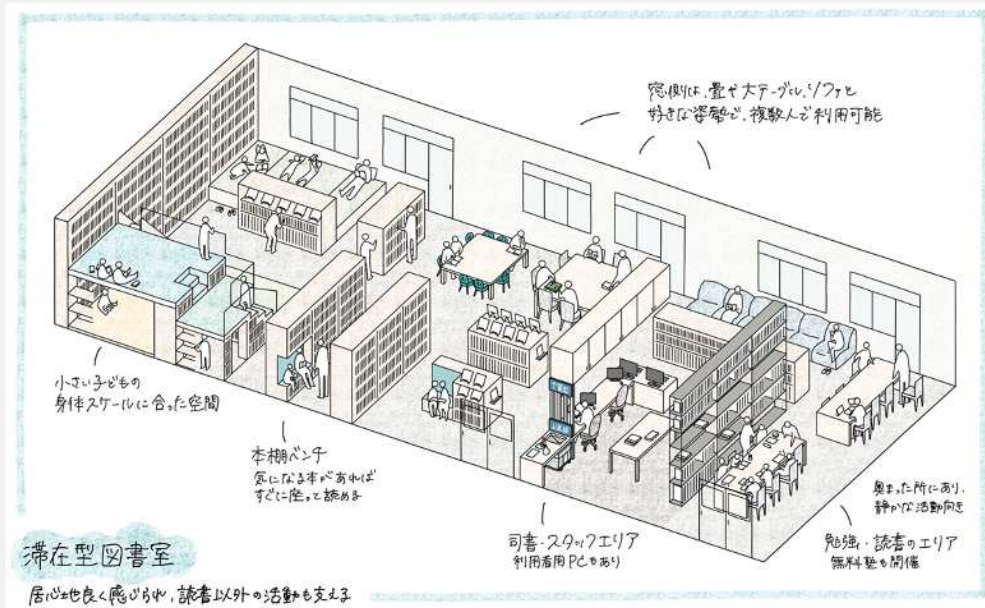


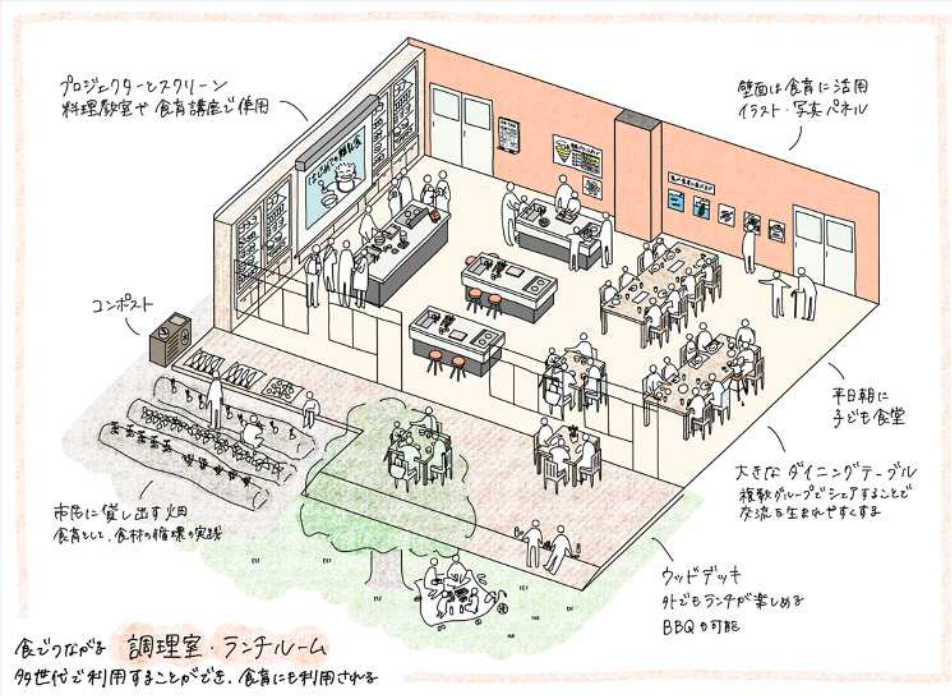
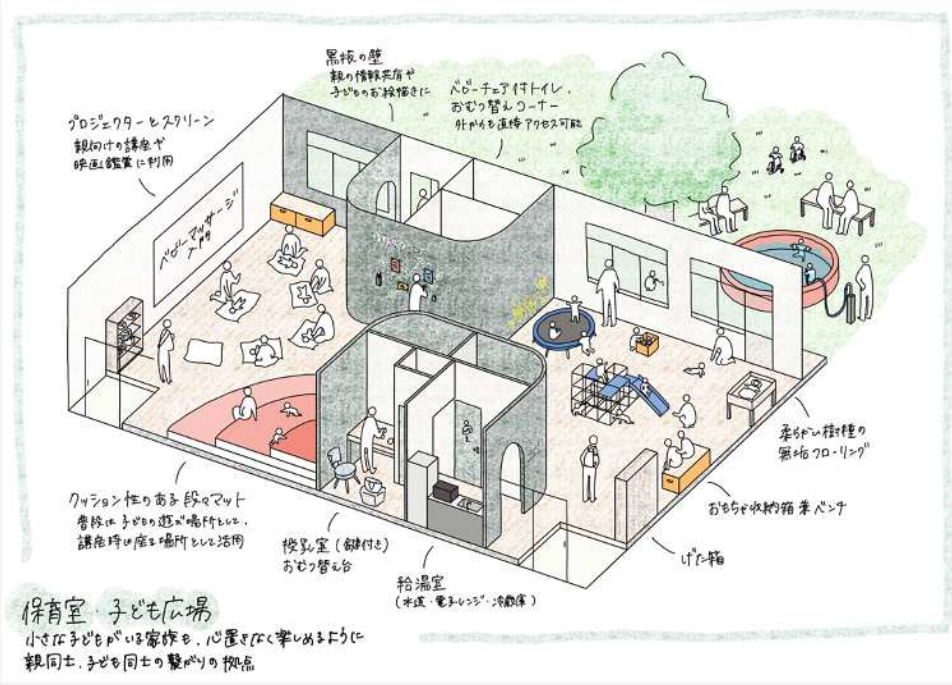


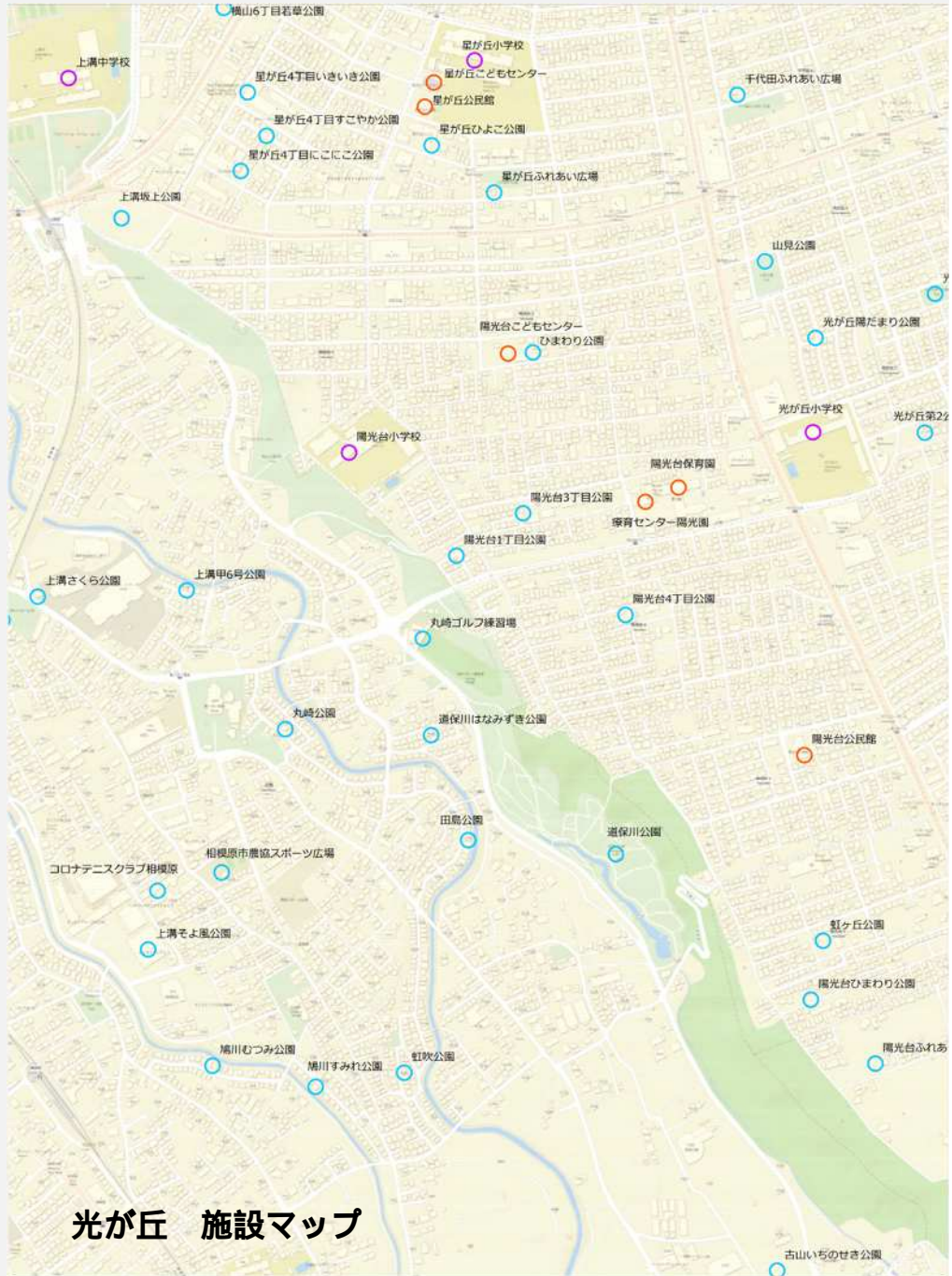
完成イメージ図 - 諸室

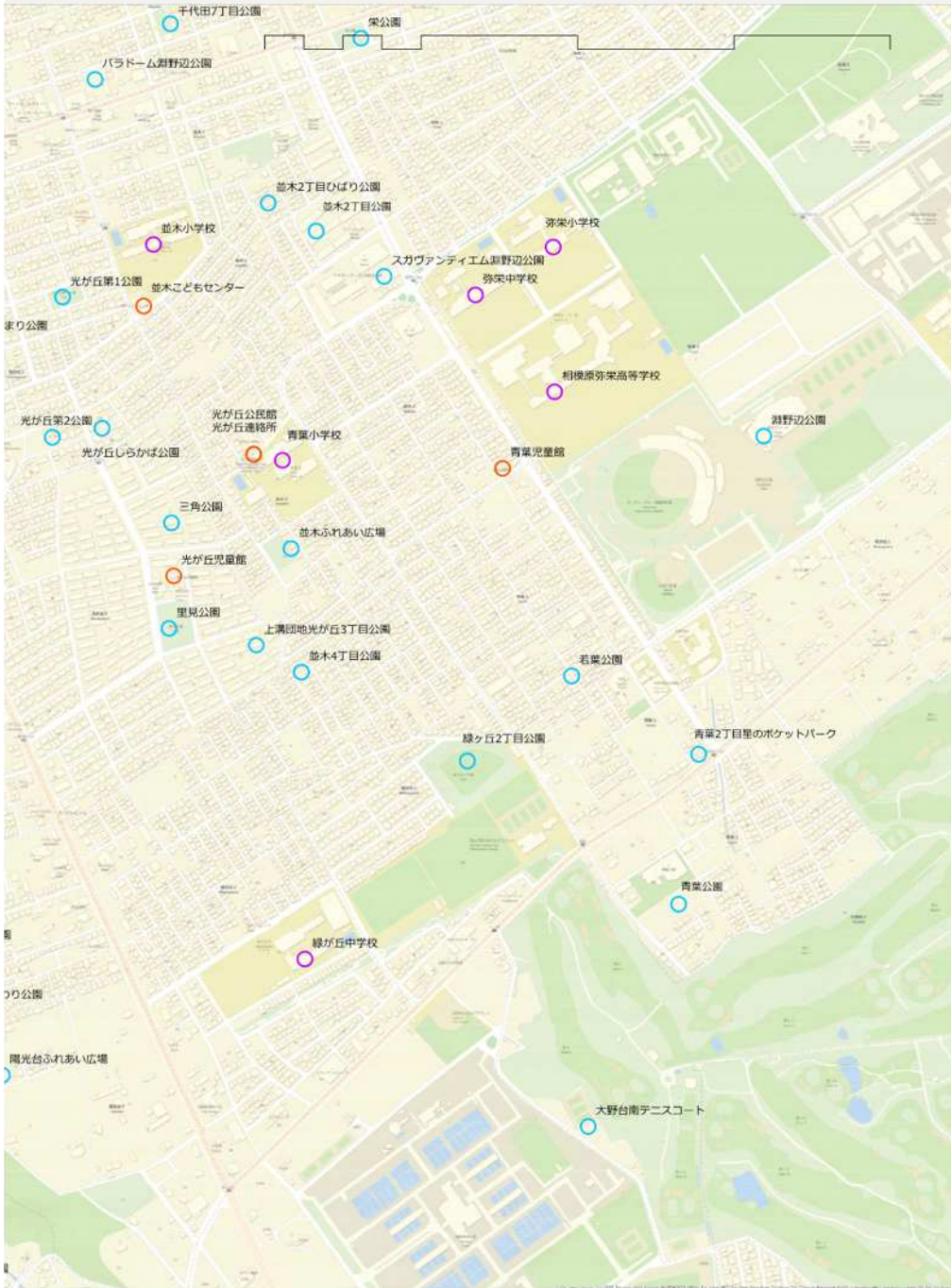
製作：大学院生 柴田さん

くすのきチーム - 諸室









市民検討会及び子どもワークショップに参加いただいた皆さまには昨年のワークショップに引き続き、子どもをまんなかに据えた熱心な議論をいただきました。今後も対話を通じて、いただいたご意見をカタチにできるよう取り組んでまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

子ども・若者  
政策課  
**角田**

子ども・若者  
政策課  
**本田**

市民検討会では委員の皆様のご協力により、活発な意見交換の中で様々なアイデアをいただくことができました。また、こうした活発な意見交換ができたのは、ファシリテーターである讃岐先生をはじめ、東京都立大学の大学院生の活躍による参加者のイメージの共有・共感にあったと感じています。ありがとうございました。

光が丘地区に対する参加者の皆様の熱い思いに負けないよう、担当者として毎回一生懸命に企画、準備、開催に取り組みました。毎回時間を忘れるくらい熱心に議論されている参加者の皆様、学生さん、市職員の姿を見て、担当者冥利につきる思いでした。今後も決して簡単に進むプロジェクトではないと思いますが、「オール光が丘」の精神を持って一丸となって頑張りましょう。

子ども・若者  
政策課  
**本多**

アセット  
マネジメント  
推進課  
**芦野**

光が丘地区の皆さんの熱い思いに触れることが出来、非常に勉強になりました。この取組は、本市のリーディングプロジェクトとして位置付けられ、注目されている事業です。他の地区から羨ましく思われるような施設となるよう取り組んでいきましょう。

市民検討会で3つのチームに分かれて考え、その思いが込められたイメージ図が本当に素敵でした。青葉小学校跡施設がこのイメージに近づけるよう、来年度以降もしっかり取り組んでいきたいと思っています。参加いただいた市民の皆さん、讃岐先生、東京都立大学の学生の皆さん、本当にありがとうございました。

アセット  
マネジメント  
推進課  
**小澤**

アセット  
マネジメント  
推進課  
**岸**

市民検討会では、学生のイメージ図をきっかけに、活発な議論となり、「将来の絵姿」を共有することの大切さを感じました。子どもワークショップでは、「大声を出したい!」「癒される場所がほしい!」など、率直な声も聴くことができました。将来の絵姿を具体化し、皆様から愛される施設になるように、今後も取り組んでいきたいと思っています。



保育課  
長澤

今回の市民検討会では、サブファシリテーターとして校庭チームを担当させていただきました。校庭チームでは、災害時の拠点としての機能を軸としつつも、地域の活性化や子どもたちの育ちの場として、日常においても最大限生かせるよう、たくさんのアイデアが出ていました。どんな施設になるのか、本当に楽しみです。

構想から計画へ。検討会も夢から少し現実味を帯びて進んでいく！理想に現実を併せて皆さんが活発に意見をjする機会に立ち会えてとても勉強になりました。ありがとうございます。

陽光園  
大塚

生涯学習課  
川手

昨年度の市民対話ワークショップに続き、今年度は市民検討会とこどもワークショップに参加させていただきました。毎回活発に意見を出されている委員の皆さんの姿を見て、「本当に光が丘地区のことが大好きなんだな」といつも感動していました。皆さんからいただいた数々のアイデアをもとに、閉校後の青葉小学校が素晴らしい施設となるようにしていきたいです。

地域住民の皆様とこれからの地域の未来を考えていくことはとても楽しく、やりがいのあるものでした。これも、参加された皆様それぞれが地域に愛着を持ち、このまちをもっと良いものにしたいといった気持ちがあったからこそ、やりがいを感じられたものと思っています。

政策課  
小宮

中央6地区  
まちづくり  
センター  
小瀬村

検討会の中では、たくさんの素敵なアイデアを出していただき、ありがとうございました。皆さんの思いが詰まった青葉小学校の跡施設が光が丘地区の中心となり、新たな地域コミュニティの創造や活性化に繋がることを期待しております。

学生の皆さんがいることで、和やかな雰囲気の中で、それぞれの意見を活発に交換することができ、有意義な検討会でした。従来の公民館や児童館の機能を、青葉小学校の施設を活用することで、よりよいものにできるイメージとなり、今後、どのように実現できるか楽しみになりました。ありがとうございました。

こども・若者  
支援課  
葛原

2021年度に開催された『光が丘地区の公共施設再編に向けた市民対話ワークショップ』に引き続き、2022年度も光が丘地区の皆さんと協働して、令和7年4月に閉校予定となった青葉小学校の利活用について検討を進めました。この「将来廃校予定の学校施設を対象に、地域の方々とともに先回りして未来の利活用について考える」というスタイルは、相模原市内における先導的な取り組みに留まらず、他の地方自治体においても注目されつつあります。

都心部よりも少子高齢化の波が早く押し寄せている地方では、公共施設再編とか公共施設マネジメントという言葉が生まれる以前から、統合や廃止が進められてきました。そうした地域ほど、学校の地域の中での中心性は強く、統廃合に至るまでの議論には様々な紆余曲折があります。だからこそ、統廃合は失敗が許されない事業になるのです。結果、統廃合を意思決定することが何より大事になり、その後の利活用の議論が紛糾することで統廃合の決定そのものが覆されるような事態は絶対に避けなければならない、といった空気が生まれます。そのような背景があり、これまでの多くの事例では「将来の廃校利活用を先回りして考える」というスタイルが成立しなかったのです。

しかしながら、そもそも地域の資産を途切れなく活かすことは、地域住民に対する公共サービス提供を考える上で大事な発想です。仮に学校施設だとしても、仮に今通っている生徒がそこにいるとしても、その施設が使われなくなる予定があるのであれば、戦略的に先回りして利活用を考えることは行政にとっても重要なことと言えるでしょう。光が丘地区の公共施設再編はそうした点で非常に稀有なプロジェクトであり、全国でこれから展開するであろう学校施設の統廃合事業について、先進事例となる可能性を秘めているのです。

2022年度の市民検討会を通じて、こうした状況を参加者と共有しながら進められたことは、一つの成果です。そして、こうした先回り検討が受け入れられるのが光が丘地区の特徴である、と確認できたこともまた、成果でしょう。これらは、光が丘地区の皆さんが持っている地域への愛着や誇りをより強いものにしたのではないかと考えています。

もう一つ、光が丘地区の市民検討会で浮かび上がった大事な事柄があります。それは、「この拠点の主人公は子ども・若者である」という共通認識です。

これは2021年度のワークショップの成果をまとめた報告書でも記したのですが、一般的に市民ワークショップの議論を通じて得るキーワードは、「みんな・交流・ふれあい・多世代」というような、一見すると綺麗だけれども具体的には何を指しているのかわかりづらい言葉、あるいは人それぞれに解釈が少しずつ異なる言葉、です。それに対して光が丘地区での検討会では、具体的にどんな世代、どんな人たちが「主人公」になるのか、多世代で構成された参加者たちの間で、一定のイメージが浮かび上がりました。2021年度のワークショップの成果と、こうした2022年度の議論を踏まえ、実際に子どもたちを対象とした「こどもワークショップ」も開催し、実際の子どもたちの声を聞くこともできました（ここでは、大人の私たちが驚くようなアイデアも多数ありました！）。その声を、市民検討会に参加する大人の参加者たちにフィードバックすることもできました。こうした過程を経て、浮かび上がった主人公が、より表情ある顔としてイメージできるようになったのではないかと、と思っています。

公共施設や公共空間に関わらず、何かを整備するときに、どうしても空間や建物の仕様ばかりを考えがちだった過去のプロジェクトとは異なり、これからはその空間・建物を「誰が、どのように、どこで、いつ、どんな形で」使うのか、佇むのか、触れるのかを考える、つまり利用の風景をイメージすることが大切になります。将来の青葉小学校の利活用を考えたときも、具体的にどんな人たちがどんなふうに利用するのか、その風景、そのイメージを具体的に想像し、それに合わせて空間や建物をデザインするプロセスが有効です。そういった意味でも、光が丘地区の今回の議論は、これから入っていく更に具体的な計画・設計プロセスにおいて、有効に生かされるものと期待できます。

地域の方々と丁寧に議論を積み重ねてきたこの青葉小学校が、地域にとっての新しい財産になることを願っています。また、こうした議論の積み重ねそのものもまた、地域の財産になると思います。長期的に見れば、さらにまた別の地域再編のプロジェクトが起こるであろうことを踏まえ、その財産はきっと将来にまた生かされることでしょう。

東京都立大学  
 讃岐先生

院1  
明庭

市民の皆さんが地域に対する「おもいやり」を持ち参加されている姿が印象的であり、毎回のワークショップで多くのことを学ぶことができました。また、準備段階では市の職員の方々と関わり、利用者である地域住民の思いをできるだけ反映しようとしていた姿勢が印象に残りました。人のつながりによる地域コミュニティのあたたかさの重要性を学ぶことができたと感じています。貴重な機会をありがとうございました。

このワークショップで、市民の皆さんが自分たちが住む地域に対して様々な切実な想いを持っているのだと伝わってきました。そして、市の職員の方々が住民を大切にしたい愛のあるまちづくりをしようと尽力される姿からも、多くを学ばせていただきました。貴重な経験をありがとうございました。

院1  
柴田

院1  
今井

この検討会を通して、公共施設を地域の人達でどのようにしていくかということを積極的に意見を交わすことができ良かったですし、今後も様々な自治体でこういう積極的な取り組みが広がっていくと良いなと感じました。数年後今回の検討会で交わされた意見が実現したところを見たいです。

より良い地域的拠点づくりに尽力されている地域住民の方や、市役所の方の努力の結晶であると改めて感じました。特に、対比する意見の食い違いをどのようにかけ合わせていくか、面白い場面に多く出会うことで、まちづくりの実態についてより深く学べました。貴重な経験をさせて頂き誠にありがとうございました。

院1  
高橋

院1  
九谷

本ワークショップを通して、地元住民の利用してきた施設への思い入れがあることを理解しました。皆様の過ごしてきた実体験を通じて挙げられた問題点、それをどう変えたいのか、それらの想いが我々にも伝わってきました。住んでいる人の意見を聞く重要性を学べた機会でした。ありがとうございました。

ワークショップに参加させていただきありがとうございました。地元が一番詳しい皆さんが話し合いを主導することで、こんなにも可能性が広がるんだとわくわくしました。施設ができれば来ようと思います！

院1  
塚原

院1  
小川

地域の皆様がそれぞれの立場ならではの視点を持って話し合う姿が印象的でした。特に、これからこの地域を担っていく子どもたちへの熱い思いを強く感じました。私にとって、毎회가とても学びの多い時間でした。短い期間でしたが、光が丘地区に関われたことを大変嬉しく思います。貴重な経験をありがとうございました。

参加者の皆さんが真剣に小学校とまちの将来に向き合っている姿が印象的です。また、市の職員の方々も地域の皆さんの声をしっかり汲み取ろうとしていることが伝わってきました。そんな皆さんの熱心な姿を見て、公共施設は地域の様々な人が関わることが大切であり、そうあるべきだと改めて感じました。今後まちづくりや公共施設に関わりたい身として、大変学びの多い経験になりました。ありがとうございました。

院1  
砂村

院1  
宮川

毎回熱い議論が繰り広げられる中に参加させていただき、まちづくりにおける地元の方々の力を感じました。実際に場所を作り上げていく過程に微力ながら協力する機会をいただき、ありがとうございます。すてきな場所の完成と皆さんのさらなる活躍を願っています。

市民の皆さんも市の職員の方々も、どなたも積極的に熱を持って参加されているのが印象的でした。また子どもたちの意見にも驚かされるばかりでした。今後、大人の方々も子どもたちも皆が納得できる形に計画がまとまると嬉しいです。学生として、微力ながらお手伝いさせていただくことができ、大変貴重な経験となりました。ありがとうございます。青葉小の未来を楽しみにしています。

院1  
秋葉

院1  
及川

市民の方が建築を通してまちの未来を真剣に考えている姿がとても素敵だと感じました。光が丘だからこそその活用方法が今後実現することを心待ちにしています。貴重な機会をいただきありがとうございました。

## スタッフ一覧

### 東京都立大学

#### ファシリテーター

都市環境学部 建築学科 助教 讃岐 亮

#### 学生ファシリテーター

大学院 都市環境科学研究科  
博士前期課程1年

明庭 拓海  
柴田 裕花  
今井 都紀子  
高橋 知絵  
九谷 薫平  
塚原 彩  
小川 爽花  
砂村 三奈  
宮原 朋美  
秋葉 大地  
及川 祐介

#### 市民検討会協力職員

保育課  
陽光園  
生涯学習課  
政策課  
こども・若者支援課  
中央6地区まちづくりセンター

長澤 師郎  
大塚 敦子  
川手 祥夫  
小宮 拓史  
葛原 強  
小瀬村 達也

#### 事務局

こども・若者政策課

角田 仁  
本田 智典  
本多 渉  
出利菜 雪野  
芦野 拓  
小澤 伸弥  
岸 祐太

アセットマネジメント推進課

光が丘地区の公共施設再編に  
向けた市民検討会 報告書

冊子編集・構成：柴田・小川・高橋(都立大)  
監修：本多(相模原市)・讃岐(都立大)

2022.10 ~ 2023.3

